

芝地最強の病原菌と戦え

藻類・ピシウムに効く

Fight for Turf

クロス
2つの有効成分が交差

プロテクト
予防 + 治療で芝を守る

クロステクトTM 水和剤

芝用殺菌剤

特 長

- ・病原菌侵入阻害効果と保護殺菌剤の作用により、植物の内外から効果を発揮します。
- ・藻類に対して優れた効果を発揮します。
- ・ピシウム病に対して優れた予防効果を発揮します。
- ・抗菌スペクトラムが広く、ダラースポット病や炭疽病、カーブラリア葉枯病等幅広い病害を防除できます。



クロステクト™ 水和剤

農林水産省登録：第23529号
 種類名：マンゼブ・ミクロブタニル水和剤
 ●有効成分：マンゼブ・・・65.0% ミクロブタニル・・・2.0%
 ●その他の成分：鉱物質微粉、界面活性剤等・・・33.0%
 ●性 状：淡黄色水和性粉末
 ●有効期限：5年
 ●包 装：1kg×10袋 殺菌剤分類 M3-3



使用方法(登録内容)

作物名	適用病害雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む農薬の総使用回数	ミクロブタニルを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量				
日本芝	カーブラリア 葉枯病	発病初期	1 ～ 2g/㎡	0.25ℓ/㎡	3回以内	散布	3回以内	5回以内
西洋芝 (ベントグラス)	ダラスポット病				2 ～ 3g/㎡		0.5ℓ/㎡	3回以内
	炭疽病							
	ピシウム病							
	藻類	藻類発生初期	3g/㎡					

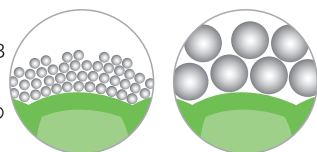
クロステクト水和剤の有効成分が持つ特長

■高品質なマンゼブ粒子！

クロステクト水和剤に含まれるマンゼブは、分子が互いに集合・結合し、有効成分エチレンビスジチオカーバメート(EBDC)に薄い網目状の亜鉛の外壳を持つという構造をしています。この亜鉛外壳が有効成分EBDCの放出量を調整し、優れた残効性を示します。

クロステクト水和剤のマンゼブは粒子が1～3μm(0.001～0.003ミリ)。この均一で微細な粒子が粒子間吸着や植物体への吸着を強め、優れた耐雨性を示します。

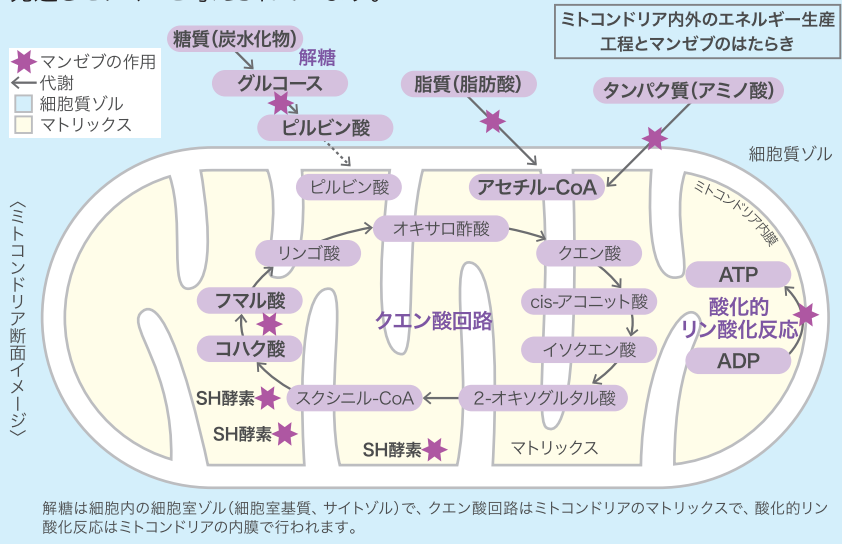
- 左：1～3μm(0.001～0.003ミリ)の粒子イメージ
- 右：3μm(0.003ミリ)以上の粒子イメージ



植物体上のマンゼブ粒子(イメージ)

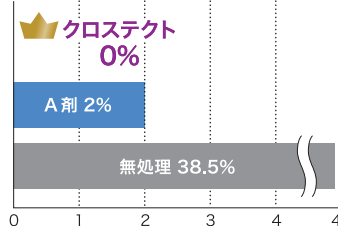
■マンゼブは作用点が6つ！

病原菌細胞の活動エネルギーの生産工程において、マンゼブは作用点が1点だけでなく複数存在します(多作用点接触活性)。これにより、病原菌の薬剤耐性を発達させにくいと考えられています。



クロステクト水和剤の藻類に対する効果

●処理13日後 藻類被度

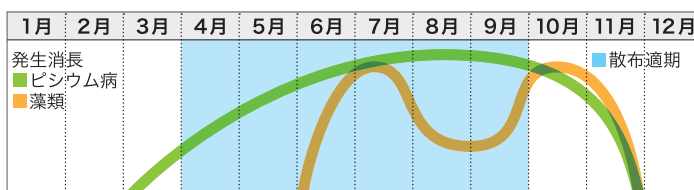


発生初期の藻類に対して優れた効果を示し、ベントグラスに対する影響も認められなかった。

試験機関：(一財)関西グリーン研究所
 散布日：平成24年6月5日
 調査日：平成24年6月18日
 芝種：ベントグラス
 栽植様式：刈高4.5mm
 藻類発生程度：中

おすすめ散布方法

ジチオカーバメート系殺菌剤は抵抗性を発達させにくい、ローテーションにオススメです。予防散布で優れた効果を発揮します。



使用上・安全上の注意

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液およびチオジカルブ剤との混用は避けてください。ボルドー液との7日以内の近接散布は葉害を生じる恐れがあるので避けてください。
- 芝に使用する場合、夏期高温時に連用散布すると葉害を生じる恐れがあるので注意してください。
- 桑葉にかからないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、出来るだけ病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は施設内外に放置せず、環境に影響のないように適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

製造 ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

〒100-6110 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー

販売



株式会社 二チノ緑化

<http://www.nichino-ryokka.co.jp>

本社：〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号 岡谷ビルディング6階

電話：03-3808-2281 FAX：03-3808-2360

大阪営業所：〒562-0036 大阪府箕面市船場西2丁目1番11号

箕面船場センタービル11階

電話：072-727-8015 FAX：072-727-8022

取扱

本資料は2020年2月現在の知見に基づき作成されています。